



報道関係者各位

2011年12月2日
日本イコモス国内委員会

伊藤延男氏 Gazzola 賞を受賞

記念建造物、遺跡等の保護・保存のための国際 NGO であるイコモス (ICOMOS ; International Council on Monuments and Sites、国際記念物遺跡会議) は 12 月 1 日、フランス・パリのユネスコ本部で開催されている総会において、日本イコモス国内委員会の名誉会員である伊藤延男氏へのガッツォーラ (Gazzola) 賞の授賞を発表しました。ガッツォーラ賞は、3 年に一度の機会しかない、文化遺産保存の分野における世界で最も権威ある賞とされています。

伊藤氏の受賞は、アジアに多くみられる木造建築の保存・修復の手法や伝統がヨーロッパの組石造建築とは異なることを主張し、その多様性への理解と尊重を求め、歴史的建造物の保護に関する新たな国際基準の採択に貢献するなど、文化遺産保存の中でもとりわけ建造物の分野において、日本、アジアと海外との架け橋となってきた多年にわたる功績が認められたことによるものです。

Gazzola 賞

3 年に一度開催される ICOMOS 総会において、ICOMOS の活動目的に顕著な貢献を行った一個人、または一団体に授与されるもので、文化遺産保護・保存の世界におけるノーベル賞とも形容されるほど、最も権威ある国際的な賞といえます。1979 年の賞創設以来、伊藤氏は 11 人目の受賞者となりました。候補者は各国国内委員会が推薦するものとなっており、日本イコモス国内委員会は 2011 年 5 月に名誉会員の伊藤延男氏の推薦書を提出していたところです。日本人としては、1987 年に受賞した関野克博士 (日本イコモス国内委員会・初代委員長) に次ぐ二人目の受賞者です。

ICOMOS

ICOMOS は、1965 年に設立された国際 NGO で、加盟各国の文化遺産保存分野の第一線の専門家や専門団体によって構成されています。ユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、文化遺産保存の理論、方法論、科学技術の研究・応用、およびユネスコの世界遺産条約に関しては、諮問機関として、登録の審査、モニタリングの活動等を行っています。2011 年 12 月現在、参加国は 127 カ国を数え、会員は 10000 人以上にのぼり、文化遺産の価値の高揚のための重要な役割を果たしています。

日本イコモス国内委員会 (1979 年発足) は、日本国内の ICOMOS 会員が組織する団体で、これらの目的を果たすための国際ネットワークの日本における拠点として活動しています。

伊藤延男氏 略歴

1925 年生まれ、86 歳。愛知県出身。1947 年に東京帝国大学第一工学部建築学科を卒業後、東京国立博物館に入り、その後、60 年以上にわたり、一貫して国内および国際的な文化財建造物の保護に尽力。文化庁建造物課長、文化財鑑査官、東京国立文化財研究所所長を歴任し、世界遺産条約起草会議をはじめ、多くの国際会議、国際研修等に参加。世界遺産条約の仕組みを日本に紹介し、歴史的な集落・町並みの保存を目的とした「伝統的建造物群保存地区」制度制定に大きく貢献した。1983 年 4



月より 1990 年 5 月まで ICCROM（国際文化財保存修復研究センター）理事・財政事業委員会委員。

ICOMOS では 1987 年から 1993 年まで本部執行委員、1993 年から 1996 年までは本部副会長を勤め、2005 年には名誉会員の称号を授与。2006 年には、一連の国内外における文化財保護への尽力、またそれを通じた国際協力への貢献が評価され、わが国でははじめて、文化財保護の分野から文化功労者として顕彰された。

工学博士（東京大学）、文化功労者、東京文化財研究所名誉研究員、ICOMOS 名誉会員、神戸芸術工科大学名誉教授。専門は文化財建造物の保護・保存、日本建築史。

《本件に関するお問合せ先》

日本イコモス国内委員会事務局

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

岩波書店一ツ橋ビル 13F 文化財保存計画協会気付

電話/FAX: 03-3261-5303

E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

Web: <http://www.japan-icomos.org>